

氏名	右田 裕規
職位	COE 研究員
<p><b>研究概要</b></p> <p>研究テーマ「私化的傾向の進展にともなう天皇家への「無関心」の拡大過程にかんする歴史社会学的研究」にもとづき、経験的資料の調査と理論的考察を実施した。とりわけ今年度においては、京都大学附属図書館を拠点とした資料調査と、テーマに関連する先行文献の検討作業に重点をおきつつ、研究活動を行なった。</p> <p>具体的に着目したのは、昭和大礼に代表される、近代の祝祭の「効果」についてである。研究史上、国民統合の重要な契機・手段として位置づけられてきた天皇家の祝祭は、じつさいのところ、どのていど民衆の国民意識を喚起できていたか。この点を、経験的資料にもとづき再考する作業をとおして、皇室への無関心の拡大という事象にたいし、アプローチを行なってみた。</p> <p>近代の祝祭の心的効果を測定する上で、具体的な指標にすえたのは、国旗の掲揚率、祝祭日の休業率、祝祭の拝観者数などである。今年度の調査活動では、それらの指標にかかわる資料を重点的にあたってみた。収集できた資料の範囲で言えば、祝祭の統合効果はおよそ限定されたものである。たとえば祝祭日にあたっての国旗掲揚という習慣は、都市・農村どちらでも、自発的な形では全く広まらず、行政による絶え間ない強制を定着上必要とした。郡町村是として大正期に広まる祝祭日の休業も、実態を見るならば、都市部では雇用主の利潤追求の論理、農村部ではローカルな祭日にたいする愛着を背景として、しばしば履行されていなかった。拝観者の出席率や賀表の数などを見る限り、大礼のようなビッグイベントも、従来言われるほど民衆の国民意識を喚起できてない。各種資料にしたがえば、天皇家の祝祭が喚起していたのはむしろ、「消費」や「遊興」といった、きわめて私的な欲望のほうだった。今年度の研究活動で得られた知見は、以上のようにまとめられる。</p>	
<p><b>業績リスト</b></p> <p>著書</p> <p>右田裕規、『天皇制と進化論』青弓社、2009年</p>	